

木崎中だより

2号

令和3年4月30日(金)
さいたま市立木崎中学校
048(886)4302

さわやかな挨拶 少しの気配りがあふれる木崎中に

校長 稲田 正平

4月8日(木)に始まった令和3年度もひと月が経ちました。この間には各学級の学級開きと各教科の授業が始まり専門委員会も行われ、20日には1年生が部活動に本入部となりました。また、コロナ禍により、まん延防止措置が講じられたために授業参観を中止させていただいたにもかかわらず、24日(土)の学級懇談会には多くの保護者の方々が足を運んでくださいました。心から感謝いたします。いよいよ本格的な木崎中学校の活動がスタートしました。まだ学生服の着こなしがなんとなくぎこちない1年生も3年後には大きく成長してくれることを期待しています。

先日、授業中に各教室の様子を見回っている際に体育の授業のために空になっていた教室を眺めると、学生服が丁寧にたたんで机の上に置かれているのを見かけました。よく見ると机だけではなく椅子に置いてあるのも見かけられます。これは一人二人のことでなく、その教室の半数ぐらいの生徒が学生服を丁寧にたたんでいました。また、多少数の違いはあるものの他の教室でも同様の光景が見られました。このように、身の回りの物の整理整頓ができ、物を大切に扱うことができる生徒が多いのは木崎中のいいところだと感じました。

また先日、地域の方からお電話をいただきました。「道祖土に住んでいる者ですが、1年生の男の子が中学生になっても忘れずに私に挨拶をしてくれて、嬉しくなって電話をしました。」という内容です。ご本人様は本校の生徒の挨拶で温かな気持ちになったことが、殊の外嬉しくなったと仰っていました。このようなお電話をいただき、職員一同改めて挨拶の大切さを感じています。

始業式に「さわやかな挨拶」「少しの気配り」「響く校歌」この三つを意識してこの1年間の生活を送りましょうと話しました。最近気のせいかわ、朝だけでなく廊下で生徒とすれ違う時に「こんにちは」という挨拶が増えたようにも感じます。中学生時代は多感な時でもあり、なんとなく気恥ずかしくて挨拶ができなくなることがありますが、さまざまな人とコミュニケーションを図るには、まずは挨拶が基本となります。来年の4月から成人になる年齢が18歳になります。すると、今までよりも早く自立することが求められるようになります。身の回りの整理整頓を始めとして、周りの人へも気遣いができる心配りは、これからの生活に必ず役に立つものと言えます。また今の木崎中生が校内で、また校外でもお世話になっている地域の方に挨拶ができるようになり、自立した大人に向けての基礎を身に付けてほしいと願っています。そのために教職員一同、「さわやかな挨拶」「少しの気配り」ができる木崎中生を育成してまいります。

さて、今年の5月1日にはさいたま市は市政施行20周年を迎えます。本市ではこれを記念して、5月1日を「さいたま市民の日」に制定しました。今年はこの日が土曜に当たるため当日に特別なことを催すことは叶いませんが、木崎中生が本市の成り立ちや歴史、文化などを学び、本市の魅力を認識・再発見できるようにしていきたいと思っております。